



## 校長室だより～湘南の空～

第 13 号

令和 4 年 10 月 28 日

世界保健機関（WHO）は、2020 年 1 月 30 日、新型コロナウイルス感染症について、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言した。その後、世界的な感染拡大の状況、重症度等から 3 月 11 日新型コロナウイルス感染症をパンデミックとみなせると表明した。（国立感染症研究所）

98 回生は中 3 の終盤から、99 回生は中 2 の終盤から、100 回生は中 1 の終盤から活動が制限され、本当に辛い時期だったと思う。

前号で触れた通り、苦い経験で失われた自己の物語を回復するためには、「寝ること」「他者とのコミュニケーション」そして「身体感覚と感情の取り戻し」の三つが重要だとされている。辛かった経験は消えることはないが、各々の青春の文脈で意味を見だし、明日につなげることはできる。

生徒の皆さんには、こうした経験を糧に、未来の世界を様々な分野から動かしていくことを想像してほしい。

何事も基礎固めが最も困難な道である。理念・目標を掲げ突き進むからこそ、俯瞰し、自分を知ることができるのではないか。

### 部活生の叫び集め、寄付募る動画発信

朝日新聞 10 月 15 日朝刊に「部活生の叫び集め、寄付募る動画発信 ホール改修応援して 湘南高校の放送部員ら」という記事が掲載された。

本校の多目的ホールには舞台と約 400 の座席があるほか、ホール後方上部からステージを照らす演出ができる調光卓や音響卓もある。しかし、1995 年の完成から 25 年以上たち、照明の一部が操作できなくなるなど不具合が目立つようになってきた。「場面を切り替える背景の色の演出などがうまくできず、観客がしらけてしまう」

そこで、県立学校の教育環境整備にあてる寄付を募る県の「まなびや基金」における、学校が用途や目標、プロジェクトにかける思いを示して寄付を募る「事業提案型」の枠組みを活用することとし、「2026 年度までに合唱部・吹奏楽部・絃楽部・演劇部・放送部の全国大会での上位入賞」を目標に掲げ、ホールの照明および音響機器の整備費用（更新する機器と工事費用の合計）として 3 千万円を目標額に据えた。

寄付を広く訴えるために放送部が作成した動画は「高校生の“ミライ”に託してみませんか」というメッセージで締めくくられている。多目的ホールを利用する各部の部員たちは「改めて、魅力的な仲間たちだと再認識したからだ。」という。関係する生徒の皆さんは「まなびや」の状況を把握し、リーダーシップ、行動力を発揮して広報活動を進めた。湘南生のこうした活動は、人々に勇気を与え、社会を変える力になるに違いない。心より敬意を表したい。

## 湘南生に元気を 作品展「河童界」

タウンニュース藤沢版 2022 年 9 月 9 日号に「湘南高 OG 原田さん 母校で作品展 河童の世界へようこそ」が掲載された。

湘南高校歴史館ギャラリーで、茅ヶ崎市在住のイラストレーター、原田紀子さん（42 回生）による作品展が開催されている。

「原田さんの数年ぶりの個展で、立体や木版画など誰もが知る妖怪をテーマにした 20 余点が並ぶ。古今当東西に伝承が残り、絵画や漫画にも度々登場する不思議な存在の一端に触れてみて。その名も『河童界』——。（中略）東京芸術大学美術学部工芸科を卒業後、フリーランスのイラストレーターとして活躍。新聞や雑誌に挿絵やイラストを提供、国立横浜国際会議場（横浜市西区）の壁画などを手掛けた。」

原田さんによると、作品は茅ヶ崎市立病院にも展示してあり、見る方々が明るい気持ちになることをテーマに制作したとのこと。

原田さんは湘南生時代を振り返り「高校に入学し、授業が突然分からなくなったショックで随分悩んだ。しかし、自分の道を進み、イラストレーターとして世に出、今こうして、母校で作品展まで開催している。『湘南生はやればできる』と言うことを知ってもらいたい。湘南生が元気になるような作品を集め展示している。」と語った。

私は、原田さんの作品から、温もりとエネルギーを頂いた。

12 月 24 日（土）まで。開館は日曜祝日を除く午後 1 時から 5 時。

## ソロキャンプを通して前向き、能動的に

コロナ禍で密集や密閉が敬遠されてきた中、キャンプに熱い視線が注がれている。「キャンプ女子」の草分け的存在として「女性でも楽しめるキャンパススタイル」を発信する森風美さんは本校 88 回生だ。（タウンニュース平塚版 2021 年 6 月 17 日号）「ソロキャンプを通して前向き、能動的になった」と語る森さんは「人生を変えるほどの魅力を持つキャンプを知ってほしい」と著書「はじめよう！ソロキャンプ」（山と溪谷社）を出版した。「好きなときに、好きなように楽しめる、どこまでも自由なソロキャンプ。日常から抜け出して、時間を思いっきり無駄遣いしてみませんか？」

森さんが使うキャンプの写真には目を見張るものがある。山、湖、草原、馬、テント、旗… 人を元気にする写真ばかりだ。森さんは生活自体をアートにしているという印象だ。

キャンプの魅力は、自分自身と向き合うこと、自分が世界に生かされていることを実感すること、生きていることに感謝すること、生きるために挑戦すること、あこがれの存在になること等尽きることはない。現在、森さんが注目を集めている理由は、忘れかけている大切なものに気づき、取り戻そうとしている人が増えてきているからではないか。